

新しい世界への扉を開けよう！

所属	春日井市立鳥居松小学校	実践者	油浅 重里
対象	小学6年生 58名	時間数	12時間
場所	教室・コンピュータ室・リトルワールド・京都	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自国、他国の文化の素晴らしさに気付く ・世界には様々な文化や価値観があり、その全てが尊重されるべきものであるという意識を育む ・様々な価値観を認め、周りの人に思いやりをもって接するという行動につなげる 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	パラグアイについて知る ○「パラグアイってどんな国！？」 パラグアイの様子を写真やクイズ、実物を通して紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの写真 ・パラグアイBOX
	2~3	興味のある国について調べる ○「興味のある国について調べよう！」 国旗、人口、面積、宗教、言語などの基本情報について調べる。 ●「リトルワールドへ出かけよう！」 外国の衣食住の文化に触れ、異文化への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学 リトルワールド
	4~5	日本の文化について知る ○「日本の伝統文化について調べよう！」 修学旅行の行き先と日本の伝統文化について調べる。 ●「修学旅行へ出かけよう！」 日本の伝統文化に触れると共に、外国人観光客へのインタビューを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 京都・奈良 ・中部大学留学生 交流会
	6~8	世界の国々の文化について知る ○「世界の国々と日本のつながり、似ているところ、違うところを見つけよう！」 衣食住の文化、あいさつ、観光地や世界遺産、子どもたちの生活、学校の様子、国の印象などを調べ、パワーポイントにまとめる。 ●「鳥小6年 World Tour」学習発表会で世界の様々な国を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物 日本文化との対比
	9~10	争いの原因を考える ○「私たちはどうしてけんかしてしまうの？」 “私の当たり前は、友だちの当たり前？”“となりのまじよのマジョンナさん”2つのアクティビティを通して、争う原因を考えると共に、行動化につながる気付きを与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本 「となりのまじよのマジョンナさん」
	11~12	行動化につなげる ○「どんな未来になるといい？できることを考えよう！」 よりよい未来のために、自分にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイ写真、 ビデオ
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自国と他国の文化には違いが見られるが、それぞれに素晴らしさがあることに気付くことができた。 ・外国の方と交流することのおもしろさに気付き、母国は違っても同じ人間であると感じることができた。 ・世界で起きる争いの原因と、身近なところで起きる争いの原因に類似点があることに気付き始めた。 		
課題	2~3 学期にかけて、学校行事と関連させて国際理解教育を行ってきた。そのため、最後の「行動化につなげる」授業の実施が3学期の終わりになってしまった。できればもう少し前の時期に行い、本当に子どもたちの普段の行動につなげることができたか、検証できるとよかった。		
備考	最後にパラグアイの小学校と、手紙での交流を行いたいと考えている。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「パラグアイってどんな国？」

この時限のねらい

- ・教師が訪れたパラグアイの話聞き、他国を身近に感じる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 教師のパラグアイ訪問体験の話聞く。
- ② 話を聞いた感想と、興味のある国ベスト 3 をワークシートに記入する。
- ③ 社会見学(リトルワールド)に向けて、国調べをすることを聞く。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 教師から直接体験談を聞き、パラグアイを身近に感じることができた様子だった。
- ◇ 日本とパラグアイのつながり、類似点、相違点に気付き、異なる文化に触れることのおもしろさを感じることができた様子だった。

3 使用した教材

- <教材1> パラグアイBOX(平成 28 年度教師海外研修)
- <教材2> パラグアイパワーポイント(平成 28 年度教師海外研修)

2-3 時限目「興味のある国について調べよう！」

この時限のねらい

- ・世界には様々な国があることを知る。
- ・他国に関心をもつ。

1 子どもの活動の流れ

- ① 前回のワークシートから、調べる国とグループが伝えられ、社会見学(リトルワールド)の準備をすることを知る。
- ② 担当の国について、国旗、人口、面積、言語などの基本情報を調べる。(個人調べ)
- ③ 社会見学(リトルワールド)に出かけ、他国の衣食住の文化に触れる。





2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 様々な国の衣食住の文化に触れ、子どもからは実際の国に行ってみたいという声が多くあがった。
- ◇ リトルワールドでは実際にその衣食住の文化に触れられるような様々な体験をした。調べるだけでなく、体験活動をしたことで、他国に関心をもつことができたようだった。

3 使用した教材

<教材3> 社会見学のしおり(リトルワールド)

4-5 時限目「日本の伝統文化について調べよう！」

この時限のねらい

- ・自国の文化に関心をもち、その素晴らしさに気付く。
- ・自国と他国の文化を比較し、双方の素晴らしさに気付くことができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 修学旅行に向けて、修学旅行の行き先と日本の伝統文化について調べる。
- ② 外国人観光客と外国人留学生へのインタビューの準備をする。
- ③ 修学旅行に出かけ、伝統的な建造物を見たり、能舞台を鑑賞、体験したりする。
- ④ 修学旅行先で、外国人観光客へのインタビュー(日本についての印象などを英語で訪ねる)を行う。
- ⑤ 同様のインタビューを留学生交流会の際に外国人留学生にも行う。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 子どもたちの感想からは、実際に日本の歴史的な建造物を見て、外国の建物との違いを強く感じていることがわかった。自国、他国双方の文化にそれぞれの個性があり、おもしろいと感想を書く子もいた。
- ◇ 外国人観光客のインタビューでは、初めは緊張したけれど、実際に話してみると楽しかったとの感想が多かった。日本の好きな食べ物や好きな場所をインタビューし、日本に興味をもって来てくれたことがうれしい、日本の好きなところを言ってくれてうれしいと感想を書いていた子も多かった。実際に外国人の方と接してみて、交流することの楽しさや、喜びを感じた子が多かったようである。また、言葉が通じなく

でも大丈夫だったとの感想と、言葉が通じないとやはり不便だと改めて思ったとの感想と両方あった。コミュニケーションツールに対する気付きもあったようである。

- ◇ 日本についてのインタビューをするということで、学校行事である中部大学留学生交流会で留学生へのインタビューを行った。留学生と一緒に話をしたり、遊んだりする中で、母国は違っても同じ人間だ、大きな違いはないと感想を書く子もいた。



3 使用した教材

- <教材4> 修学旅行のしおり
- <教材5> インタビューシート

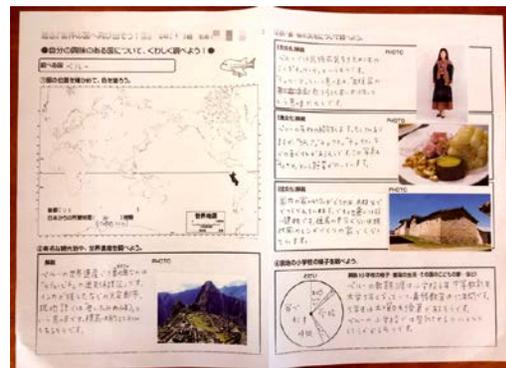
6-8 時限目「世界の国々と日本のつながり、似ているところ、違うところを見つけよう！」

この時限のねらい

- ・世界には様々な文化や価値観があり、違いがあることのおもしろさや素晴らしさに気付く。
- ・日本と世界のつながりに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① 前回の調べ学習の際の担当の国について、衣食住の文化、あいさつ、観光地や世界遺産、子どもたちの生活、学校の様子などを調べる。(個人調べ)
- ② 調べたことをもちり、グループで発表のためのパワーポイントを作成する。
- ③ 学習発表会で発表する。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 衣食住の文化を中心に、自分たちと同じ小学生の生活や学校の様子、夢などについても調べたことで、他国に住む人々を少し身近に感じることができたようだった。
- ◇ 子どもたちは意欲的に調べ学習を行い、発表の準備に取り組んでいた。
- ◇ 自由に調べるのではなく、テーマを決めて調べることで、他グループの発表を聞くときにそれぞれの国を比較し、類似点や相違点を見つけることを目的としている。

3 使用した教材

- <教材6> 「世界のともだち」(偕成社)

9-10 時限目「私たちはどうしてけんかしてしまうの？」

この時限のねらい

- ・争いの原因を考える。
- ・世界には様々な文化や価値観があり、その全てが尊重されるべきものであるということに気付く。

1 子どもの活動の流れ

- ① 教師が提示するテーマに沿って、子どもたちがグループの中で我が家の当たり前を紹介する。(例: 目玉焼きにかけるものは?)
- ② 肯定的な聞き方と、否定的な聞き方の両方で発表を続ける。
- ③ 感想や気づきをクラスで共有する。
- ④ 絵本「となりのまじよのマジョンナさん」の読みきかせを聞き、話の続きを予想する。
- ⑤ 予想したことをグループで共有する。
- ⑥ 教師の話聞く。
- ⑦ 授業の感想をグループで共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分が大切にしているもの、思いを否定されたときに怒りの感情が芽生えること、様々な人がいて、その数だけ多様な価値観があり、その1つ1つが尊重されるべきものであることを子どもたちに感じさせることをねらいとして授業を行う。また、世界で起きている争いの原因と、自分たちの身近で起きている争いの原因には共通点があることにも気付かせたい。子どもたちの感想や気づきの共有をしっかりと行うことで、活動の成果を出したいと考えた。
- ◇ 授業前に、子どもたちが争いについてどんな考えをもっているのかを把握するためにアンケートを行った。子どもたちからは、考えの違いや価値観の違いを認め合えないこと、周りのことを考えた言動ができないこと、互いのことを気遣う気持ちが足りないことが争いの原因になっているのではないかという意見が見られた。また、世界で起きている争いは、自分たちの身近で起きている争いと似ていると思うなどという意見もあった。

3 使用した教材

<教材7> 『となりのまじよのマジョンナさん』/ 偕成社

11-12 時限目「どんな未来になるといい?できることを考えよう！」**この時限のねらい**

・様々な価値観を認め、周りの人に思いやりをもって接するという行動につなげる。

1 子どもの活動の流れ

- ① 前回の授業を受けて、自分も周りの人も気持ちよく過ごすためにできることをランキング形式で考える。
- ② 作ったランキングをグループで共有する。
- ③ グループでふりかえりをする。
- ④ 教師の話聞く。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ これまでの学習をふりかえり、学んだことを普段の自分の生活に落とし込んで行動化に結びつけることがこの活動のねらいである。子どもたちの意見の共有を積極的にしたい。

3 使用した教材

<教材8> パラグアイ写真、ビデオ(2016 年度教師海外研修)

■ 全体を通して

1 授業の様子



<留学生交流会の様子>



<調べ学習の様子>

2 参考文献・資料

- 1) 『親子で学ぶ国際教養が身につく本—グローバル対応力—』/山崎紅著/日経 BP 社